

2011年度 人間福祉学部報

■ 社会福祉学科



学部の完成年度を迎え、社会福祉学科でも初めての卒業生を出すことになりました。今回は、学科報告として、社会福祉学科の研究演習Ⅰ(3年生)、研究演習Ⅱ(4年生)のゼミの様子を各担当教員に紹介していただきました(以下、担当教員50音順)。

池埜ゼミ

研究演習Ⅱ:社会福祉分野論を横断する心的外傷(トラウマ)問題について、ミクロからマクロな視点で理解するゼミ。7名の取り組みは、とにかく積極的(担当教員がゼミ生についているようなもの)。難しい専門書を数冊読み込み、提出物は束になるほど。ゼミ生が企画し、沖縄(戦争被害者)、石巻・女川(東日本被災者)、そして御巣鷹山(JAL墜落被害者)を訪問。現場に触れ、五感すべてを動員して被害を肌身で感じる経験をしてくれました。ピカイチでした。ゼミ生に一人ひとりに感謝感謝!

石川ゼミ

研究演習Ⅰ:13名のゼミですが、いつも和やかな雰囲気(ちょっと緊張が無い面もありますが)、ゼミをしています。各自の研究テーマはこれ

から詰めていきますが、これまでのゼミの研究テーマとしては、障害児・者問題、障害者雇用問題、母子・児童の虐待、貧困問題、在日外国人問題、LGBTなどです。

研究演習Ⅱ:5名の少数精鋭のゼミです。メンバーが少ない分、お互いのサポート体制がしっかりしています。また、全員就職が決定したので、就職決定率100%のゼミです。各自が熱心に卒業研究に取り組んでいます。

今井ゼミ

研究演習Ⅰ:ゼミ生は仲が良く楽しいクラスです。研究テーマもユニークで、アニメとジェンダー、フランスの社会保障、男性学、ワークライフバランス、魔女と女性問題、絵画のなかのジェンダーなど、多彩なテーマで研究を進めています。研究演習Ⅱ:少人数クラスなのでアットホームな雰囲気(ゼミを進めています。就職もそれぞれ決まり、学生生活最後の思い出づくりのために、遊びにも研究にもはげんでいるみんなです。

大和ゼミ

研究演習Ⅰ:当初少し静かなゼミでしたが、秋学期に入って各々の希望テーマを選択し、グルー

ブ発表を始めると、積極的に質問をする学生が増え、欠席者にはゼミ長から連絡メールを配信する等、学生の自主的なゼミ運営が軌道に乗ってきました。

研究演習Ⅱ：現在10名で少人数のゼミの利点を生かし、率直な意見の交換ができています。出産で中国に一時帰国した仲間のためにゼミのマーケティング映像付DVDを作成しました。

川島ゼミ

研究演習Ⅰ：春学期はコミュニケーションスキルの演習、「二十歳のころ」プロジェクトを進め、秋学期はアサーションを取り上げています。卒業研究の準備も始めました。個性的な16人のメンバーがそれぞれに持ち味を発揮しています。

研究演習Ⅱ：10人のゼミメンバーで、グループプロセスについての学びと、それぞれの卒業研究を進めています。研究テーマは「非言語的コミュニケーションの影響」から「児童虐待の歴史」まで多岐に渡っています。

小西ゼミ

研究演習Ⅰ：5人の個性がそれぞれに際だって、大変よい交互作用が生まれつつあります。医療における生命倫理やコミュニケーション、業務の内容、難病など、多様なテーマへの取り組みが毎回楽しみです。

研究演習Ⅱ：皆素直でとても仲の良いクラスです。ディスカッションの時間は大抵不足がちです。お互いの考えや感情を知り、その違いを認めて、しっかり向き合う姿勢が育ってくれて、とても嬉しく思っています。

杉野ゼミ

研究演習Ⅰ：広く社会のなかで社会福祉が果たす役割や機能について、日経新聞などを資料として調べた。また、難病ケースを取り上げて「精いっぱい生きること」について考えた。12名の楽しいデコボコゼミです。

研究演習Ⅱ：「てんかんと社会」と「インスリン依存型糖尿病の生きづらさ」について、グループで研究し、オープンキャンパスおよび障害学会で発表した。8名の仲良しゼミで、先生が見ていないところがんばるし、盛り上がってます

陳ゼミ

研究演習Ⅰ：ゼミでは老年学要論をじっくり勉強した後、個々に選んだテーマに基づいた文献研究発表をします。お菓子当番が毎週安くて美味しいお菓子を準備して、お菓子とお茶をしながらゼミ生たち9人全員和気藹藹で授業を進めています。

研究演習Ⅱ：10月下旬に卒論を提出して、12月は合同ゼミで卒論研究発表をゼミの後輩たちの為に行いました。2年間の集大成を披露が披露された重みがある発表会でした。また2年間培ってきた友情も卒業後お互いをつなぐ絆になることを願っています。

芝野ゼミ

研究演習Ⅰ：3名の小さなゼミですので、発表の回数が多くて大変かもしれません。ことに英語の文献を読んだの発表には、手こずっていますが、めきめき力をつけてきています。食事会も少人数のせいかわつたり落ちついた時間が持っています。

研究演習Ⅱ：子ども家庭福祉と子育て支援をテーマとしてそれぞれのペースで研究を進めました。正直、就職や卒業研究でヒヤヒヤさせられました。一人ひとりが個性豊かで、思わぬ出来事が多く、楽しませていただきました。

前橋ゼミ

研究演習Ⅰ、研究演習Ⅱはそれぞれ16名ずつのメンバーです。研究演習Ⅰでは、子ども虐待や貧困など子ども家庭福祉に関する文献や資料などの購読と、社会資源の見学、グループでの学習、コンパなど、研究演習Ⅱでは、それらを基本に、各々がテーマを決めて論文作成に向けて合宿やディスカッションに取り組みます。進路は金融関係、教員、福祉職、メーカーなどバラエティに富んでいます。卒業後も飲み会をしたり仲良くしています。

松岡ゼミ

研究演習Ⅰ：春学期は文献とディベートで理論面を鍛えてきた(?)。現在、障害児者との交流企画立案に向けて悪戦苦闘中。個々に行動力があり、まとまると相当な底力発揮の潜在性有り。並行して、個人研究テーマ深化を目指す。

研究演習Ⅱ：タレント揃い。リーダー役が複数い

て、適宜役割交代しながらまとめている。福祉職指向強く、PSWになる者も多い。一般企業予定者も福祉マインドに溢れている。4年間の集大成を卒研としてまとめきった。

室田ゼミ

研究演習Ⅰ：春学期は一冊の本について担当者を決めて皆で報告しました。秋学期は少し絞ったテーマで取り組みました。そろそろ卒論を視野に入れていかなければならないと思っています。

研究演習Ⅱ：春学期は就職活動でゼミ生の皆さん頑張りました。そのため、ゼミの時間はそちらの方に関心が集中したようです。全体的に卒論の取り組みが遅れましたが、社会に出てからの彼らの活躍を期待します。

安田ゼミ

研究演習Ⅰ：少人数ですが、学生主導でグループプロジェクト、ゼミプロジェクトを計画・実施中です。それぞれ、面白い研究テーマで、成果が楽しみです。

研究演習Ⅱ：社会福祉学科でははじめての、そして、私が関学に入って初めて受け持ったゼミ生です。皆、個性豊かで、ゼミを盛り上げてくれ

ました。

以上、13名の教員で3年生、4年生のゼミを担当してきました。今年のはじめての卒業生を出す社会福祉学科ですが、この4年間お世話になった先生も一緒に卒業されます。実習教育で大変、お世話になった助教の中島尚美先生、高杉公人先生のお二人です。中島先生は、主に児童、母子を中心に非常に熱心な実習指導をして下さいまして、学生にはもちろん、施設からも大変、高い評価をいただいております。また高杉先生は、特に地域福祉の実習に尽力して下さい、夏のタウンマップ作り・秋学期の報告会は先生の存在なくしては実現できない貴重な機会となりました。お二人には、学生も教員も本当にお世話になりました。言葉に尽くせないほどの感謝の気持ちと寂しさでいっぱいですが、今後も関学ファミリーとしてよろしくお願いたします。そして今年、卒業する学生たちに、最後に一言、関学は「あなたたちの港」です、疲れた時にはエネルギーを給油しに先生方の研究室に寄ってくださいね。待っています！

(今井小の実)

■ 社会起業学科



人間福祉学部にとって完成年度となる本年度4月、社会起業学科に79名の1年生がまた新たに加わりました。新学期早々行う学科ガイダンスでは、毎年身の引き締まる思いを感じますが、完成年度という記念すべき年度を迎え、特別な感情を抱いたことを記憶しています。1年生79名、2年生76名、3年生69名、4年生88名、総勢312名で社会起業学科の2011年度はスタートしました。

人間福祉学部がスタートした2008年度以降、本学科ではさまざまな取り組みを行ってきました。ただ、スタート当初は、何から何まですべての事が始めてだったこともあり、反省点や課題を多く残すこととなった取り組みもありました。その反省点を教員同士、時には学生とも共有し、改善しながら、毎年継続することにより本学科にとって魅力的な取り組みとなるよう検討を重ねてきました。そして、完成年度である本年度は、継続的に実施している取り組みに加え、新たな取り組みもスタートさせることにより、充実した授業や様々な行事を提供することができたと感じています。具体的には、学科合宿、連続講座、土曜講座、講演会、ワークショップ、フィールドワーク、フォーラム、シンポジウム等がそれに当たりますが、ここでは、代表的なものを報告します。

<社会起業学科連続講座「世界を変える社会起業家たち2011」>

過去3年に続き、世界各地で活躍する社会起業家たちを招き、連続公開講座「世界を変える社会起業家たち2011」を開催しました。これまでは全4回構成でしたが、本年度は春学期のみならず秋学期にも講座を開き、全8回構成で開催いたしました。その中でも、特に今年を象徴する内容となったのが第2回目の講座でした。3月11日、マグニチュード9.0という日本の観測史上最大の地震が東日本を直撃し、東北地方を中心に甚大な被害が発生しました。その震災を受け、「震災復興に向けて私たちにできること」と題したシンポジウムを開催いたしました。本シンポジウムでは、実際に現地に入って活動されている大阪ボランティア協会より講師をお招きし、被災地に関する報告をいただくほか、本学の学生による活動報告も行うことで、人間福祉学部生と教員が共に、自然災害時にどのような事業やプログラムが必要なのか、

どのようにして事業を速やかに立ち上げるか、どのようなネットワークが事業成功の鍵となるかなど「私たちにできること」について考えました。連続公開講座の概要は次の通りです。

■第1回 2011年4月21日(木)

・テーマ Social Enterprise “UNIQUEASE”：何故なら僕たちはユニークな存在だから～

・講師

中村八千代氏(フィリピン・ユニカセ代表)

過去を乗り越え、未来を創る青少年たち～

■第2回 2011年5月2日(月)

・テーマ 東日本大震災復興シンポジウム「震災復興に向けて私たちにできること」

・講師

永井美佳氏(大阪ボランティア協会)

藤川 義(人間福祉学部人間科学科3年生)

二ノ宮 響(人間福祉学部社会起業学科4年生)

北西 将太(ヒューマンサービスセンター代表)

池埜 聡(災害復興制度研究所研究員・人間福祉学部教授)

小西加保留(人間福祉学部教授)

牧里 毎治(社会起業サポートセンター長・人間福祉学部教授)

■第3回 2011年5月19日(木)

・テーマ 適正技術：開発途上国と日本への意味合い

・講師

中村 俊裕氏(米国NPO法人コペルニク共同創設者兼CEO)

■第4回 2011年5月26日(木)

・テーマ 異文化間対話を促進するコミュニティラジオの成立条件

・講師

日比野純一氏(特定非営利活動法人エフエムわいわい代表理事)

■第5回 2011年6月23日(木)

・テーマ MDGs達成に向けた、企業とNGOの役割

・講師

米良彰子氏(特定非営利活動法人オックスファム・ジャパン事務局長)

■第6回 2011年11月9日(水)

・テーマ コミュニティベースの小規模水力発電

事業によるエネルギー課題解決と地域活性化

・講師

トゥリ・ムンプニ氏 (IBEKA= 地域住民を重視した事業・経済研究所代表)

■第7回 2011年12月13日 (水)

・テーマ 障害者支援の現場における現状と課題
～技師装具士が見た現代アフリカの20年～

・講師

ルダシングワ真美氏 (ムリンディ/ジャパン・ワンラブ・プロジェクト)

■第8回 2012年1月10日 (火)～12日 (木)

・テーマ The Infrastructure Organizations for Social Enterprises in England—the role and function of Social Enterprise London

・講師

Ms. Mei Yee Hui 氏 (Business Research Manager, Social Enterprise London)

・備考

1月10日 (火)・11日 (水) にワークショップ、12日 (木) に講演会を実施

＜起業プラクティス特別講演会・ワークショップ・フィールドワーク＞

2011年11月18日 (金) から20日 (日) に、子どもの権利条約採択の日 (11月20日) を記念して、“共に未来を作ろう”を合言葉に地域を巻き込み、ストリートチルドレン問題に取り組んでいるセバスチャン・マロット氏 (フレンズ・インターナショナル事務局長) を迎え、「日本と世界の子どもの権利を考える」と題する、起業プラクティス特別講演会・ワークショップ・フィールドワークを開催しました。

＜社会起業総括フォーラム＞

文部科学省大学教育推進プログラム「社会起業家養成の革新的教育プログラム開発」の総括を行うフォーラムを2011年12月10日に開催し、3年間の取組や、学生の活動・プロジェクトを振り返り、今後の課題について議論を深めました。概要は次のとおり。

■基調講演①

・テーマ 学生時代の『想い』を仕事にすること

・講師

村田早耶香氏 (NPO法人かものはしプロジェクト共同代表)

■基調講演②

・テーマ 学生の社会貢献活動と教育支援の展望

・講師

釣島平三郎氏 (太成学院大学経営学部教授)

■学生の社会起業プロジェクト報告

■総括ディスカッション「大学教育を通じた社会起業家養成の課題と展望」

人間福祉学部が開設され早4年。人間福祉学部にとって初めての卒業生を社会へ送り出しました。卒業生は、充実した学生生活に対する名残惜しさを抱きながらも、社会人としての新たな人生を歩むことになります。彼らの晴れやかな表情を見ると、こちらまで充実感に溢れてきます。しかし一方で、社会起業学科における3つのG、「総合性 (Generality)」「自治性 (Governability)」「国際性 (Globality)」を備えた人材を育成することができたかどうか、起業能力の養成ができたかどうか等、自問自答が絶えることはありません。着なれないリクルートスーツに身を包み、就職活動に精を出し始めた新4年生。彼らが卒業を迎える1年後、自問自答すべき項目が一つでも減っているよう、教育研究に励みたいと思います。

(林 直也)

■ 人間科学科



人間科学科は2011年4月2日の関西学院大学入学式に、女子58名、男子48名、計106名の新生を第4期生として迎えることができました。昨年と同じく学部宣誓式から新生生にとって人間福祉学部ならびに人間科学科における実質的なスタートとなりました。4月3日から、履修指導、学科オリエンテーションが開催されました。特に学科オリエンテーションでは各教員の自己紹介が研究の専門性を中心に説明され、学習への動機付けを強く促進する内容となりました。本年度の新生の入試形態も昨年度同様多岐にわたり、多くの可能性を秘めた第4期生であるといえます。

2011年度の教学上の大きな話題は4年生の研究演習Ⅱおよび卒業研究です。それぞれ担当教員の専門性を生かした指導の下、学生達が興味を持った研究課題に対し、様々な方法を用いて調査を行い、それを文章として形に残す卒業論文は、これまでの大学教育で得た学習成果の集大成であり大いに期待されます。また、3年生も昨年度の甲山自然の家における人間科学科合宿キャンプを踏まえ、学生自身が興味を持つゼミを選択し研究演習Ⅰがスタートしました。一方、卒業研究とは別に、4年生の通年科目に理論と実践を体験的に学ぶことができる人間科学フィールドワークが開講されました。今年度は5名の学生が履修し、それぞれ

のフィールドワーク先で人間への理解をより深めることができました。また、その経験を、2011年11月26日に開催された人間福祉学部実践教育報告会において報告しました。

前年度と同様に人間科学科合宿キャンプ、スポーツ大会などが行われました。2011年7月1日（金）～7月2日（土）の1泊2日で甲山自然の家において1年生を対象に人間科学科合宿キャンプを開催しました。甲斐先生、佐藤先生が中心となり、キャンプファイヤーや、朝食にカートドック（牛乳パックを使用してホットドックを作る）を作ったりして、たいへん有意義な時間を過ごすことができました。また、2011年10月11日には、G号館のラウンジにおいて2年生を対象にした人間科学科オリエンテーション交流会を開催しました。柴田実習助手の呼びかけもあり、多くの学生が参加し、教員との交流を深めるとともに興味を持つゼミを発見する良い機会となりました。前年度から学部行事として実施されるようになったスポーツ大会は、社会起業学科林直也先生の指導のもと、多くの参加者がバレーボール、バスケットボールなどの種目に熱戦をくりひろげ、若者らしい歓声をあげ、またすがすがしい汗を流し、学科の枠を超えた交流がなされました。

以上が人間科学科の全体の2011年度の主な報告

になります。特に4年生にとっては人間科学科での学びをもとに就職や進学などといった形で社会に出て行く先を決める年となりました。多くの学生の就職が内定し、また大学院に進学する学生もおり、たいへん喜ばしい限りであります。これか

らも人間科学科らしい学生・教員の良い緊張感のもと、学生の皆さんが様々な分野で多くの成果をあげることが出来るように今後がんばってほしいと願ってやみません。 (溝畑 潤)

■ 言語教育

必修外国語科目の英語講読では、流暢さの向上と素早く的確に情報を読み取る能力の強化をめざし、副読本の多読課題を出しています。資料室に約2,000冊の副読本を準備し、学生各自が能力に応じた難易度のものを選び、毎月最低一冊を読むことを課しています。読後には理解を確認するためのクイズを解きます。2011年度には大学図書館に副読本が補充され、学生が自分で購入する必要はありません。

また3学科(社会福祉・社会起業・人間科学)の専門教育への橋渡しとなるよう、2年次の英語講読には本学部の教員が各専門分野に関して執筆したテキスト(『Living in Society: From People to Persons』2011年1月、南雲堂)の使用を始めました。

英語コミュニケーションの授業では英語による異文化間コミュニケーション能力を伸ばし、学習意欲をさらに高めるための試みを引き続き行っ

ています。春学期にはマルバーン校(Malvern School, Malvern, Australia)のイトウ先生にご協力いただき、同校の教室とPCソフト(Skype®)を用いた同時交流授業を行いました。授業にゲストスピーカーを招き、その国の文化について紹介して異文化への理解を深める試みも続けています。昨年は在シンガポールの英国人、ネパールからの留学生にお願いしましたが、今年はアメリカ合衆国とスウェーデンの方に来ていただきました。学生の異文化への関心を改めて高めるお話がうかがえたと思います。また、さまざまな国の交換留学生との交流を取り入れた授業も行っています。

この他に、人間福祉学部では、必修科目の英語表現、第2言語として英語コミュニケーション、フランス語、ドイツ語、中国語、朝鮮語、スペイン語、日本手話を開講しています。また、外国人留学生向けの日本語Ⅰ(必修科目)と基礎英語(選択科目)を開講しています。(福居誠二)



■ チャペル

日時	担当者	主題 (奨励題)
4月8日(金)	嶺重 淑 (宗教主事)	チャペルオリエンテーション
11日(月)	嶺重 淑 (宗教主事)	チャペルオリエンテーション
13日(水)	嶺重 淑 (宗教主事)	「地の塩として」
15日(金)	広瀬 康夫 (吉岡記念館職員)	讃美歌練習①
18日(月)	広瀬 康夫 (吉岡記念館職員)	讃美歌練習②
20日(水)	Els-Marie Anbäcken (人間科学科教員)	いのちについて考える①
22日(金)	聖歌隊	讃美歌練習③
25日(月)	嶺重 淑 (宗教主事)	イースターを覚えて
27日(水)	グリーンクラブ	音楽チャペル
5月2日(月)	石川 久展 (社会福祉学科教員)	いのちについて考える②
4日(水)	藤井 美和 (人間科学科教員)	いのちについて考える③
6日(金)	上ヶ原フィルハーモニック	音楽チャペル
9日(月)	混声合唱団エゴラド	音楽チャペル
11日(水)	嶺重 淑 (宗教主事)	「自由とは何か」
13日(金)	成岡 宏晃 (神学部M2)	「共にうめく生命」
16日(月)	川島 恵美 (社会福祉学科教員)	いのちについて考える④
17日(火)	大学合同チャペル (第1日) に合流	} 総主題: 建学の精神
18日(水)	大学合同チャペル (第2日) に合流	
20日(金)	上ヶ原ハビタット	活動報告
23日(月)	嶺重 淑 (宗教主事)	テゼ共同体のうた
25日(水)	牧里 毎治 (社会起業学科教員)	いのちについて考える⑤
27日(金)	バロックアンサンブル	音楽チャペル
30日(月)	宗教総部献血実行委員会	春の献血週間を覚えて
6月1日(水)	松本あずさ (神学部M2)	「神学部からこんにちは」
3日(金)	嶺重 淑 (宗教主事)	「ニーチェと運命愛」
5日(月)	ゴスペルクワイア (P.O.V.)	音楽チャペル
8日(水)	上山美津穂 (人間福祉学部3年)	「私のなかの光」
10日(金)	木原 桂二 (北山バプテスト教会牧師)	「人間の力」
13日(月)	小西砂千夫 (社会起業学科教員)	「欲しいものは手に入らない」
15日(水)	嶺重 淑 (宗教主事)	讃美歌練習
17日(金)	孫 良 (社会起業学科教員)	「一日の大切さ」
20日(月)	陳 礼美 (社会福祉学科教員)	いのちについて考える⑥
22日(水)	池埜 聡 (社会福祉学科教員)	いのちについて考える⑦
24日(金)	聖歌隊	音楽チャペル
27日(月)	山内 一郎 (元院長・理事長)	「憐み深い神」
29日(水)	Els-Marie Anbäcken (人間科学科教員)	「God in the Bottom of Life/ Paradoxes of Strength in Weakness」
7月1日(金)	坂口 幸弘 (人間科学科教員)	いのちについて考える⑧
4日(月)	田中 勇氣 (神学部4年)	「これから」
6日(水)	ハンドベルクワイア	音楽チャペル
8日(金)	芝野松次郎 (学部長)	「完成年度を迎えて」
11日(月)	佐藤 聡 (メインストリーム協会事務局長)	「障害者が動けば社会が変わる」
13日(水)	藤川 義 (人間福祉学部3年)	「難病の妻とともに」
15日(金)	井出 浩 (人間科学科教員)	いのちについて考える⑨

日時	担当者	主題（奨励題）
9月26日(月) 28日(水) 30日(金)	住野 公平（人間福祉学部職員） 創立122周年記念合同チャペルに合流 宗教総部献血実行委員会	「〇〇のために生きる」 「創立者ランバスの遺産」 秋の献血週間を覚えて
10月3日(月) 5日(水) 7日(金) 10日(月) 12日(水) 13日(木) 14日(金) 17日(月) 19日(水) 21日(金) 24日(月) 26日(水) 28日(金) 31日(月)	辻 学（広島大学大学院教授） 嶺重 淑（宗教主事） ゴスペルクワイア（P.O.V.） DVD上映 小野 輝（神学部M1） 大学合同チャペル（第1日）に合流 大学合同チャペル（第2日）に合流 山 泰幸（人間科学科教員） 上ヶ原ハピタット 広瀬 康夫（吉岡記念館職員） 松岡 克尚（社会福祉学科教員） 今村 仁美（人間福祉学部M2） 武田 丈（社会起業学科教員） 聖歌隊	「インフォームドコンセント」 「おごり高ぶる者とへりくだる者」 音楽チャペル 「ランバスの生涯」 「僕が今、生きているということ」 } 総主題：共に生きる いのちについて考える⑩ 活動報告 音楽チャペル いのちについて考える⑪ 「[大量死]の時代を迎えて」 「いのちを支えるもの」 いのちについて考える⑫ 音楽チャペル
11月2日(水) 9日(水) 11日(金) 14日(月) 16日(水) 18日(金) 21日(月) 25日(金) 28日(月) 30日(水)	駒木 亮（周船寺教会牧師） 嶺重 淑（宗教主事） バロックアンサンブル 阪口 新（神学部M1） 学部合同チャペルに合流 嶺重 淑（宗教主事） ハンドベルクワイア クランツ作り 嶺重 淑（宗教主事） 宗教総部献血実行委員会	「愛は見つけるもの？」 讃美歌練習 音楽チャペル 「敵はだれか？」 ランバス宣教師来日125周年記念 いのちについて考える⑬「ある出会いから」 音楽チャペル — 「アドベントを覚えて」 冬の献血週間を覚えて
12月2日(金) 5日(月) 7日(水) 9日(金) 12日(月) 14日(水) 16日(金) 19日(月) 21日(水) 23日(金)	Els-Marie Anbäcken（人間科学科教員） 大学合同クリスマスチャペルに合流 クリスマスを前にして 中塘二三生（人間科学科教員） 上田 直宏（関西学院教会牧師） 人間福祉クリスマス祝会（夕刻実施） 嶺重 淑（宗教主事） 樋口 進（宗教センター宗教主事） 神学部学生会 人間福祉クリスマス礼拝 手島真理子（宝塚小林教会牧師）	「アドベントを生きる」 — 音楽チャペル いのちについて考える⑭「親友の突然の死から」 「わたしを受け取る」 — 「最高の贈り物」 「きよしこの夜について」 降誕劇「時をかけるつよし」 } 「いのちの価値」
1月6日(金) 11日(水) 13日(金)	Els-Marie Anbäcken（人間科学科教員） 阪神・淡路大震災メモリアル・合同チャペルに合流 芝野松次郎（学部長）	「また会う日まで」 — 「この4年間を振り返って」

※備考：9月21日（水）実施予定のチャペルは台風のため中止。

*前記のように、今年度は、春学期43回、秋学期40回、計83回（合同チャペルを含む）のチャペルを実施した。今年度は例年以上に出席者が多く、特に音楽チャペルには毎回多数の出席者が見られた。奨励の多くは学部の教職員、学生他が担当し、また今年度は特に「いのちについて考える」という共通テーマで計14人の先生方に奨励していただいた。（学部のクリスマスチャペルについては下記報告参照）。来年度は今年度の反省を踏まえ、さらに充実したチャペルプログラムを提供できるよう努めていきたい。

※2011年度学部クリスマスチャペル報告

学部のクリスマスチャペルは過去2年間、クリスマス礼拝とクリスマス祝会を同日の夕刻に行ってきたが、今年度は形を少し変え、クリスマス祝会を12月14日（水）の夕刻（18：10～19：40）にG号館2階ラウンジで開催し、クリスマ

ス礼拝については12月23日（金）の通常のチャペルアワーの時間帯（10：35～11：05）に実施した。クリスマス祝会では、最初に短く礼拝の時間をもってハンドベルの演奏を聴いた後に「祝会」の部に移り、学部の学生・教職員がともに集い、軽食をともにいただきながら、ゴスペル演奏、ギター弾き語り、ピアノ連弾、ヴァイオリン&フルート演奏等のさまざまな音楽演奏を楽しみ、またサンタからのプレゼントに興じたりしながら、楽しいひとときを過ごすことができた。また、クリスマス礼拝は日を改めて人間福祉チャペルで静かに守り、宝塚小林教会牧師の手島真理子先生より「いのちの価値」という題で奨励して頂いた。

参加者はクリスマス祝会が約140名で過去最多となり、クリスマス礼拝の出席者は約70名であった。来年は今回の反省点を踏まえて開催時間やプログラム内容等を再検討し、より親しみやすいものになるように工夫していきたい。（嶺重 淑）

